
樹海パニック

結城陸空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

樹海パニック

【ZPDF】

Z8311A

【作者名】

結城陸空

【あらすじ】

富士の樹海と呼ばれる深い、深い森。いまこの場所で前代未聞の大実験が行われようとしていた。

(前書き)

この作品は「夏のホーラーフィア」という企画の作品です。

ほかの先生方の作品は「夏ホラー」と検索すると見れますのでどうぞよろしくお願いします。

富士の樹海という深い、深い森。この場所は幽霊の目撃や自殺者の耐えなきまさにこの世の地獄ともいうべき場所。俺はいまこの森で行われる大実験の参加者の1人として樹海の入り口に来ていた。

頭上の空では、ヘリコプターが何台も飛び交い、テレビや雑誌の取材やこの実験の研究者、反対者、国のお偉いさんや、この実験を見に来た野次馬達。

この前代未聞の実験は世界中が注目する大実験だつた。

頭上を飛び交う中継ヘリコプターの一台に乗っているリポーターがさつきからこの実験についての説明をしている。

『いま、この富士の樹海という最も険しく危険な森でいまだかつてない前代未聞の大実験が行われようとしています。この実験のためにこの世のありとあらゆる公共メディアが使用され、実験参加者を募りました。当初、予定されていた人数を遥かに超え、なんと12万8000人もの参加者が集まりました。そして今私の遥か下には、この実験のために集まつた12万8000人の人間がその時がくるまで待機しています。

その時というのは、深夜0時、今日8月13日の深夜0時、つまり14日になつた瞬間スタートのその大実験の内容は、この樹海への集団侵入！

多数の幽霊目撃談が存在するこの樹海をこの大人数で搜索し、幽霊の存在を否定しようとする大実験です。』

マイクでさつきから何度も説明している。つまりそういうことだ。俺は幽霊の存在なんか信じてはいない。だからこの実験に参加した。この実験に参加して幽霊なんて存在しないことを証明するために・。

この実験には、反対する人が多数でてきた。ほとんどは霊能力者だが・・・、今日の実験で彼らの言うことが嘘だと証明できる。わざわざ、実験の日程もお盆で深夜0時という最も幽霊の出現やすい時が選ばれた。これでなにもなければ幽霊の存在は完全否定される。

実験と言つても明日の朝6時までに出来るだけ深く樹海の奥に入り込むだけ。

これだけの大人数だから迷うこともないし、なにかあれば必ず分かる。

時間はもうまもなく深夜0時だ。

そして深夜0時、樹海にサイレンが鳴り響く。スタートの合図だ。12万8000人がいっしきに動きだし、樹海の中に入していく。当然俺も。

これだけの人数が樹海に入るのだから目の前には、人、人、人。もうほんとウザイくらいに人がいる。夜なのでみんなライトを持つているのだが、それが歩くたびに当たつたり、足は踏んでいくし、当たるしほんと人がいすぎでウザイ。

当初の予定では5000人ほどだつたらしいのだが、たくさん応募があり選定をやめて応募者全員参加に切り替えたそうだ。その結果

これだけの人数が集まつた。

歩いて一時間ほど・・・かなり奥まで進んできた。相変わらず周りは人だらけ。こんな場所にこんなにたくさんの人があるなんて信じられない。朝の満員電車よりひどい。

腕時計は深夜一時を示していた。

実はこの一時間の間に進展があつた。それは・・・。

自殺者の死体が発見されたらしい。しかも5体も。らしいというのは同じ樹海に入つてそこら中にいる人から聞いたからだ。まあ、それはこの実験が始まる前から言われていたことだ。これだけの人数が入れば自殺者の捜索にもなると。

それから一時間、俺はさらに森の奥深くまで来ていた。まだ当然周りは人だらけ・・・。

突然、遙か遠くから声が聞こえた。

男の・・・叫び声みたいだ。

周りの人もざわめき始める。そして人伝いにこんな話が聞こえてくる。

「この参加者の中に、殺人鬼がいてみんなを惨殺してゐるそうだ」

この話を聞いて僕は驚いた。殺人鬼？たしかにこれだけの参加者、しかもなんの選定もせずに集められた参加者だ。そういうものがい

てもおかしくはない。この場所を狩りと称して選び、人間を殺しているのだろうか？

周囲も同じことを考え始めたのか少しざわめきはじめた。

その時、また悲鳴が聞こえた。こんどは女の声だ。

その瞬間、周囲にいた1人が言った。

「さ！殺人鬼がこっちにくるぞー！！逃げろー！！」

その言葉を聞いて全員が叫んだ。そして、全員が一斉に走り出す。樹海から出るために。

俺も走る。周りの人たちに当たり、すごく邪魔だ。こんなに人が邪魔だと思ったのは、初めてだ。周りは我先にと人を押し倒して必死に逃げる人達。

やがてそれは喧嘩となり、ついには殺し合いと発展した。

俺も、生き残るためにさまざまな道具を使って人を殺す。殺さなければ殺されるからだ。そして俺は殺人鬼になった。全員が自分ひとりが助かるための人を殺している。

最初1人だった殺人鬼が1人また1人と増え、ほとんどの人が殺人鬼となつた。

やがて立っている人のほうが少なくなつていた。

どこを見ても死体と血だらけ・・・。

つい先ほどまでの状況とはまるで違う。

俺も、大怪我を負っている。お腹に木の棒が突き刺さっているのだ。俺は、大量の出血でもう歩けなくなっていた。

富士の樹海の奥で誰にも助けを求めることも出来ずに、死んでいく。俺も周りの人も。

朝六時実験終了。

この実験はある意味で大成功、そして大失敗に終わったようだ。

幽霊の存在は確認できなかつたそうだ。そういう意味では大成功。

だが、死者は12万8000人・・・。この実験に参加したすべての人間が殺し合い・・・死んだ。これは予定になかつたことで大失敗となつた。

1つ考えが改まつた。幽霊の存在は確認できなかつたそつだが、俺には見える。今も、ずっと殺し合いをしている12万8000人の死者の魂が・・・。

だつて、俺も死んだのだから・・・。

—完—

(後書き)

怖く……ないです（泣）ほんとにホラーかと自分でも疑いたくなります。

とにかくにも、読んで頂いて嬉しい限りです。ありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8311a/>

樹海パニック

2010年10月22日00時24分発行